

- 164 臨深万仞淵 ○○○●●○
- 165 具瞻兼將相 ●○○○○●
- 166 僉曰缺勲賢 ○●●○○○
- 167 試製嫌傷錦 ●●○○○●
- 168 * 操刀慎缺鉛 ○○○●●○

※脚韻は下平声「先」韻、韻字は「纏、淵、賢、鉛」である。
 *古典文学大系本では「採」とあるが、ここでは刊本にある「操」を採る。

訓読

- 161 光榮は頻に照耀す せうえう
- 162 組珮は競ひて榮纏す そはい えいてん
- 163 責は千鈞の石よりも重し せんくゑん
- 164 臨むことは万仞の淵よりも深し ばんじん
- 165 具瞻將相を兼ねたることを ぐせんしやうさう
- 166 僉曰く勲賢を缺くと みな くんげん
- 167 製を試みては錦を傷るを嫌ひ やぶ
- 168 刀を操りては鉛を缺くことを慎しむ と

口語訳

161 輝かしい榮譽は私の身を明るくかがやかすことになった。